

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

法人名	キッズラボ株式会社
施設名	キッズラボ千束こどもの家
施設所在地	大田区北千束2-15-10

1. 活動のテーマ

<テーマ>

自然と触れ合い、その不思議や力を全身で感じる

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

昨年4歳児クラスの時に夏野菜栽培を経験した5歳児。その後の土の再生にも積極的に関わった結果、もっと広い本格的な畑において、農耕作業を提案したところ、全員一致で「やってみたい!」と子ども達が非常に意欲的になったので、本年度取り組むことにした。普段、公園の砂や硬い地面にしか触れていない子ども達がどのように土と取り組んでいくのか、農耕作業を通して「ワクワク、ドキドキ」をたくさん経験させたいと考えた(土壌作り→土おこし→畝づくり→植栽→収穫→食)

2. 活動スケジュール

R7年4月～R8年3月

<トピックス>

- ①4月：土を耕やす、②4月～9月：サツマイモを植えて育てる
 - ③10月：収穫する、④10月～11月：クッキングをする
- その他、不定期に絵本で食育など

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

人数に合った畑を契約し、交通手段はバスレンタル(原体験バスと呼称)を予約。畑における発見をより深めていけるようにハンディ顕微鏡などを準備した。育てるサツマイモの種類なども子ども達が自分たちで決められるようにした。自然物や食に対する絵本も購入し、子ども達の興味をより引き出した。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

土壌作りから始まる本格的な農耕作業（サツマイモ）を通じて、自然物（虫や雑草など）に触れたり、畑の変化（育成状況）を観察したりしながら、食物を育てる大変さ・収穫やクッキングの楽しさを体感し、自然の不思議や力を探求した。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

（活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等）

- ・初めの頃は、素手で土に触ることに抵抗を示していた園児も、次第に素手で土を触り、掘ったりなどするようになり、土の感触を五感を通して経験できた。「土の中は気持ちいい。外はこんなに暑いのに」「虫がいた！サツマイモ食べちゃダメだよ！」などの会話がたくさん。
- ・収穫時、「ここにもお芋！」「ここ掘ってよ！ひとりじゃ無理！」大きな芋を掘るのに何人もが自然に力を合わせて協力し合って掘り出している姿がたくさん見られた。
- ・やっとの思いで大きな芋を掘り出して「サツマイモって大きくなるのにとっても時間がかかって、とっても大変なんだね」の声が。

チーム分けをして看板作り



4月末 雑草抜きをして畝作り

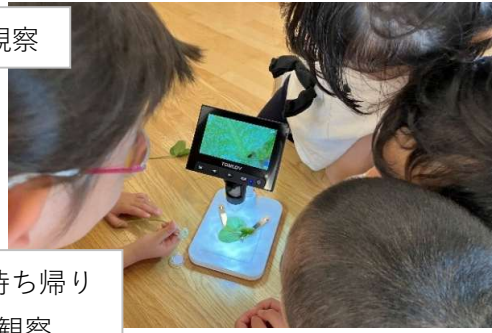


4月30日 苗植え





5月 観察



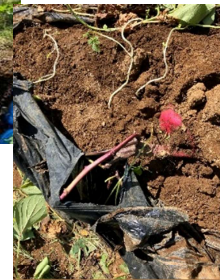
畑の雑草を持ち帰り
顕微鏡で観察



6月 観察



9月 ツルを持ち帰り
リース作り



10月 収穫



3種類のサツマイモ
茹でた状態と油で揚げた状態の違い

5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・土の開墾から苗植え、雑草取りなどの経験を通して、「食」のありがたさ、食物にも命があり、それを食べて生きていることを知った素晴らしい体験だったと思う。収穫した芋をみんなで干して、銘柄ごとに分けている姿に感動した。外観だけで、イモの銘柄を分けられる程に、子どもたちはよく観察をして調べていったのだと思うと、その成長を感じた。
- ・18名のグループを3グループにして、全員が土に十分に触れられるようにしたことにより、一人一人がしっかりと向き合えることが出来た。
- ・たくさんのメニューをみんなで考えて、クッキングを楽しめたことにより、料理によってどの銘柄が良いのかなどの探求にもなったと思う。
また、他のクラスにも分けたりなど、収穫の喜びをみんなで実感できたこと、特に今度年長児クラスになる4歳児にとっては、「次は自分たちだ！」の目標が見えてきたと思う。保育の継続、持続性、継承の大切さを保育者が実感することができた。
- ・次年度は、苗の植え方（縦植え、船底植え）によつての収穫の違い、より一層研究と観察力をもって挑戦をしていきたい。
- ・同時に土の恵みをより感じられる活動も取り入れていきたい。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

法人名	キッズラボ株式会社
施設名	キッズラボ千束こどもの家
施設所在地	大田区北千束2-15-10

1. 活動のテーマ

<テーマ>

光

(自然光の不思議と人工的な光との違いを全身を使って感じ取る)

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

昨年4歳児クラスが実施していた園外(林業試験場)での「原体験」を、「今度は僕たちだよ」と楽しみにしていた今年度の4歳児クラス。3歳児クラスの時から、公園などで太陽の光の温かさ、室内に差し込む太陽の光と影の発見などに感動をしていた子ども達に、もっと広い自然の中で太陽の光の不思議や、その暖かさや力などを全身を使って感じ取ってほしいと願い、季節ごとに林業試験場等を訪ねることとした。

また、「どうしてお部屋の電気はお日さまのように温かくなならないの?」という言葉もきっかけになり、最終的には人工の光による影遊び(懐中電灯でスクリーンに影を映し出す実験)も昨年度からの継続で続けていく。

2. 活動スケジュール

R7年4月～R8年3月

<トピックス>

①5月: 林業試験場での活動、②11月: 林業試験場での活動

③3月: 林業試験場での活動

その他、日々の保育の中で、子ども達の興味関心に応じて柔軟に活動を実施

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

あらかじめ、昨年度の4歳児が行っていた林業試験場での活動を、園内の壁に時系列に貼りだして子ども達の興味を盛り上げておいた。カラーセロファンやハンディ顕微鏡などの道具も用意するとともに、現場にある自然物(水面・葉っぱ・木々の影など)を子ども達が利用できるように促した。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

園外（林業試験場）での「原体験」を通じて、季節ごとの太陽の光の変化、暖かさ、その違いなどを、影送りや影ふみなどの遊びだったり、カラーセロファンや水面・葉っぱ・ハンディ顕微鏡などの道具を用いて探求した。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

（活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等）

- ・ 林業試験場に行ってもあいにくの曇天だった時もあり、次の晴天の日に再訪を行うなどもしたが、曇天であっても子どもたちは季節の移ろいを草木の観察によって感じる事ができた。特に「冬芽」「春芽」の発見などもできた。
- ・ 時折顔を出す太陽に、「影ができた!」「お日様が出てくるとあったかい!」などの歓声を上げていた。
- ・ 日がたっぶりの時には、ブルーシートを広げて、あおむけになって空を見上げ、太陽の暖かさを実感することもできた。
- ・ カラーセロファンで作ったものを太陽に当てて、影の色を楽しんだりもした。影の長さの変化にも気づき、「この間来た時よりながーい」「こんなに背が長くなった!」と歓声を上げていた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・いろいろな季節の変化をしっかりと発見し、特に影の違いを発見することができたことはよかった。自然の力の不思議を知ることができたと思う。
- ・「どうして夜は暗いの?」「どうして冬は寒くて、夏は暑い?」
子どもたちの質問に対応できるような活動にも取り組んでいけたらと思う。
- ・この活動を次のクラスに引き継ぐとともに、園全体で取り組んでいけるようにしていきたい。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

法人名	キッズラボ株式会社
施設名	キッズラボ千束こどもの家
施設所在地	大田区北千束2-15-10

1. 活動のテーマ

<テーマ>

造形（発想・想像力を豊かに）

<テーマの設定理由>

（テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など）

元々、昨年度から「廃材製作」に熱心に取り組んでいた5歳児クラス。自由時間や登園してきてすぐに少しの時間も無駄にしないで製作する子ども達の姿がたくさん見られていた。その熱意は進級しても失われず、より「大きなものを作りたい」と製作意欲が高まっている年長さん達の姿を見て4歳児クラスも真似して興味が高まっていることから、4・5歳クラスの製作活動が大きく発展できるような室内環境を整備してあげたいという思いがきっかけ。グレードアップした発想や創造力を育てていきたいと思った。

2. 活動スケジュール

R7年4月～R8年3月

<トピックス>

不定期に、出来上がった作品を動かしてみたり、物語や背景を作ってみたりする時間を設けた。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

（活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具）

昨年度から続く5歳児の熱意を損なわないよう、朝から夢中で取り組んでいる時には、継続的に、その時間を取れるようにした。

製作コーナーの「お約束」をみんなで考えて貼りだし、道具を自由に使えるようにしたり、道具を使う時には椅子に座って机ですることなども自分たちで考えていった。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

廃材などを使用して、子ども達が自由な発想で友達と、または1人で作品作りに集中できる環境を用意し、製作活動に取り組んだ。また、製作コーナーや道具類の使い方などの「お約束」や、出来上がった作品をどうするかもみんなで話し合い、友達との関わり方なども学んでいった。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

- ・毎朝、登園するなり、廃材置き場に直行し、「こんなのあった！」
「今日僕これもってきたんだ！」「これなあに？何が入っていたの？」等の会話が弾み、次には、「ねえねえ、これで〇〇を作ろうよ！」
「ねえ、ねえ、何作っているの？一緒に作りたいな」子どもたちの発想がどんどん膨らみ、製作にかかっている姿がたくさんみられた。
- ・当然のように廃材の取り合いもあったりもしたが、保育者はできるだけ介入しないようにして、自分たちで解決していくように見守った。
- ・共同で大きな船を作り保育室中を海に見たてたり、天体望遠鏡を作って、天井に製作した星たちを保育者に貼ってほしいと申し出てみたり、大きな大きな「大岡山神社」（5歳児クラスが登園する分園の名称にちなんで命名）を共同制作して保育園の玄関に設置したり、より神社を観察したいと散歩先に神社を希望したりなど、子どもたちの研究心はどんどん育っていった。





5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・「大岡山神社」を玄関に設置することにより、保育園中の保護者にもその活動は周知され、中には「お賽銭箱」に「本物のお金を入れていいでしょうか」と、たずねてくる保護者も。
- ・また、おみくじやお守りをどうしたらみんなが買うことができるかをクラスで話し合い、「〇〇ができたチケット」の発行をして、たまったポイントによって、お守りやおみくじをもらえる制度を作ったりなど、子どもたちのアイデアが多く育っていき、社会の制度までを取り組んだ活動ができたことはとても良かったと思う。
- ・すでに保育園中に「廃材製作」活動が行き渡っているので、より一層の発展をしていけるように子どもたちの好奇心や創造力を育てていきたい。
- ・製作に必要な道具などをラック（棚）を購入し、設置したことでその管理を子どもたちがしやすくなったので良かった。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

法人名	キッズラボ株式会社
施設名	キッズラボ千束こどもの家
施設所在地	大田区北千束2-15-10

1. 活動のテーマ

<テーマ>

巧技台を使っでの挑戦

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

保育室には小さな太鼓橋や空き箱で作った平均台などしかなく、子ども達が身体全体を使って体幹をしっかり育める環境が不足していた。子ども達も物足りない様子で、低い家具によじ登ろうとしたり、遊びに集中できない様子がある一方で、公園など園外に出た際に、大きな鉄棒につり下がったり、飛び石をはねて飛んだり等の姿が多々見られた。

また、些細なことで転んだり躓いたりすることが目立ってきたので、子ども達の体幹をもっとしっかりと育ててあげた方が、より一層色々なことにチャレンジする意欲に繋がるのではないかと考えた。

2. 活動スケジュール

R7年4月～R8年3月

<トピックス>

- ・毎月3～4回実施
- ・その他、日々の保育の中で、子ども達の興味関心に応じて柔軟に活動を実施

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

「巧技台」を購入するとともに、子ども達が楽しく遊べる動線を踏まえた保育室の環境作りを行った。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

子ども達が様々な運動遊びができるように「巧技台」を購入し、リトミックも取り入れた。子ども達がそれぞれの発達や成長に合わせて体幹を鍛え、しなやかな身体をしっかりと育めるよう、日々の保育の中で探求した。また順番待ち等のルールを守る事や、友達が達成できた時の喜びの共有なども体験できるよう活動を展開した。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

- ・巧技台になじみがないせいか、はじめのころは遠目で友達がしていることを気にしながら見ていた子も、次第に近づいてきて「やってみる？」などの保育者の声に緊張しながらもうなずき挑戦をしていくようになって、できた時の喜び、達成感を体験することができていた。
- ・子どもたちの中で、「〇〇ちゃんはすごい!」「見てみて!」「これできる!」「こうしたい!」などの言葉がたくさん出てきて、自信とともに達成感、挑戦することの楽しさを体感できていた。
- ・どう身体を動かしたらうまくいくのかを必死に考えながら挑戦している姿をたくさん見ることができて、子どもたちの成長を感じた。
「次こうするの?」「こうしたら良いかな?」一生懸命な言葉もたくさん出てきていた。

支えてもらいながら
カニさん歩き



ハシゴを渡る
ことにも挑戦



坂道の一本橋、
バランスを取りながら



初めて太鼓橋に挑戦





5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・順番待ちなどのルールを守ること、友達が出来たことを互いに喜び、感動の共有ができるように活動を行ってきた。次第に待つこと、友達を思いやりながらできたことへの感動を共有できるようになり、より一層「自分もやってみる！」という気持ちを育むことができた。
- ・いろいろな組み合わせが出来るので、その時の状況によって変化を持たせていき、ワクワクしながら挑戦できるように進めていきたい。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

法人名	キッズラボ株式会社
施設名	キッズラボ千束こどもの家
施設所在地	大田区北千束2-15-10

1. 活動のテーマ

<テーマ>

風と光をからだで感じていこう

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

【0歳児クラス】は広い窓がベランダに面していて、開け放された窓から心地よい風が入ってくるのを子ども達は目を細めて、髪の毛をなびかせて楽しんでいる。この「風」を楽しんでいる、「自然の優しさ」を五感で楽しんでいる姿を見て、もっといろいろな風を「見える化」して、深く体感させたいと思った。

【4歳児クラス】は昨年3歳児クラスの時に公園で遊んでいて「お日様があるとあったかいね」、公園内の鉄柵を触って「赤い所はあったかくないけど、黒い所はあったかいよ!」と気づく子がいたのをきっかけに、「影ができる!」と色々な展開をしていくようになった。進級したのを機に、より広い場でより自然を感じながら、風や太陽の光を全身で感じ取って、たくさんの発見とワクワクを体験してほしいと思った。

2. 活動スケジュール

R7年4月～R8年3月

<トピックス>

・10月：大森ふるさとの浜辺公園での活動

その他、日々の保育の中で、子ども達の興味関心に応じて柔軟に活動を実施

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

【0歳児クラス】はベランダに通じる窓、天井扇の風の吹き出し口、送風機などに薄い布や薄い不織布や鈴をつけた。

【4歳児クラス】はバスレンタル(原体験バスと呼称)を手配して大森海岸など自然環境にも出掛けた。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

【0歳児クラス】は、保育室内で薄い布や鈴などで、様々な「風」や「光」を五感で楽しめるように試みた。またベランダを有効活用して、風を感じたり、日の光を浴びた。

【4歳児クラス】は、屋外のより広い場所（大森海岸など）でも全身で「風」や「太陽光」を試したり、エアコンや空気清浄機などの「人工の風」なども試して、違いを探究した。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

【0歳児クラス】…ベランダからの心地よい風を受けて薄布がなびくように設置したところ、布が優しく触れてくすぐったいような表情をしてみたり、声を上げて掴もうとしたりしていた。布の先に鈴をつけてみると、風に合わせて保育者が布をそっと揺らしてみたところ音と風の動きとが心地よい刺激になって、とても好奇心あふれたまなざしを向けていた。

【4歳児クラス】…人工の光も体験していく。人工的に影を作り、自分の動きと映った影との違いに驚き、友達と手をつないでみたり、わざとおかしな格好をしてみたり、個々に自由に楽しむ姿がたくさん見られた。「手をつないでいないのに手を繋いでいるように見える!」「前に行くと小さくなっていくのに、後ろに下がっていくとお化けみたいになる!」いろいろな発見を楽しんでいた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・じゃんけんやみんなで足を横にしたり、あげてみたりなどで影を楽しむことが出来、たくさんの発見を自由にできるように環境の設定や、戸外での太陽の光による影の違いなどにも気づけるように、保育者自身も様々な発見を楽しめた。
- ・子どもたちと沢山の体験を重ねていくうちに、子どもたちが年齢に合わせてたくさんの発見や気づきが出来ていることを実感できた。
- ・まだまだ、この世の中には不思議なことがいっぱいある！ということを実感を通して伝えていきたい。